

英国の科学者たちが政府に警告：COVID-19 ワクチンの人間適用は危険

Infowars.com /by Kelen McBreen

June 14, 2021

医者たちは、この主張を証明するのに、政府自身の有害反応データベースを引用している。

<https://www.infowars.com/phttps://www.infowars.com/posts/astrazenecas-covid-jab-should-be-halted-for-people-over-60-ema/osts/uk-researchers-warn-government-covid-19-vaccines-unsafe-for-use-in-humans/>

英国の独立医学研究会社が、最近、この国の「医薬品・医療製品規制庁」(MHRA) に手紙を送り、COVID-19 ワクチンの、ネガティブな健康への効果について警告した。

起草は、Dr. Tess Lawrie (MBBCh, Ph.D.)—「[証拠に基づく医療コンサルタンシー Ltd](#)」所長—と、EbMC Squared CiC によるもので、この手紙は、英国自身のワクチン有害事象を報告したデータベースを用いて、論証を行っている。<https://www.e-bmc.co.uk/>

この手紙は、MHRA の所長である Dr. June Raine に宛てられたもので、ドクター・ローリーは、この警告を「緊急」と宣言し、EbMC Squared CiC は独立団体で、利害関係を全く持たないと言っている。

この政府の機関に呼びかけることによって、ローリー博士は、「高い数量の、Covid-19 ワクチンを原因とする、死者や ADR (獲得薬物抵抗反応) に注意を喚起しようと思った。これは 2021 年 1 月 4 日から、2021 年 5 月 26 日の間に、Yellow Card システムを通じて報告されたもので、総計、1,253 の死者と、888,196 の ADR 反応 (256,224 の個人報告) が、この期間中に報告されたものだ。」

この「[イエロー・カード・システム](#)」とは、政府のシステムで、「COVID ワクチンをはじめ、医薬品や医療機器を含む、副作用や有害事故の疑いのような、安全に関する懸念の、

モニタリングや情報を集積するものだ。」 <https://yellowcard.mhra.gov.uk/the-yellow-card-scheme/>

研究グループは、彼らの発見したものを、有害薬品反応（ADR）の、下のような、6つのカテゴリーに分けた。

- A. 出血、血栓症、および Ischaemic (虚血性) ADR——死亡 856
- B. 免疫システム ADR——死亡 171
- C. 「痛み」 ADR——死亡 4
- D. 神経学的 ADR——死亡 186
- E. 視覚、聴覚、言語、または嗅覚の失ったことによる ADR——死亡 0
- F. 妊娠 ADR——死亡 164

上に表示されたカテゴリーのそれぞれについて、研究グループは、どれくらいの致死患者が、特定の有害反応に原因づけられるか、また、どれくらいのワクチン接種者が、それぞれの原因によって苦しんだかを、詳しく調べた。

報告の全体は、冒頭の埋め込み資料を見よ

この報告は、英国の Yellow Card システムは、WHO のデータベースと違って、限られたデータしか提供していないと言っている。このことは、ADR の大多数が、18 から 40 歳までと、45 から 64 歳までの人々だけに、起こったことを説明している。

<http://www.vigiaccess.org/>

この報告は述べている：——「報告された ADR の大多数（72%）は、女性に起こっている。不幸なことに、我々は英国の Yellow Card データを、年齢や性別に応じて調べることができなかったが、これはデータが利用できなかったからである。

医者たちはまた、調査をタイムリーに済ませるために、5 か月間のデータを調査しただけだったが、見つかった多数の死亡や困難な症例は、実験的ワクチンが人間にとって危険なことを証明している、と言っている。

「便宜の必要があって、我々はこの予備的な報告で、すべての ADR の詳細を述べてはいないが」と、論文は説明する。「5 か月以下の期間の実態を語っている、この現存する Yellow Card データは、COVID-19 ワクチンに関する、罹病率や死亡率の大きさが、前代未聞であることを示している。」

調査研究者たちは、また、英国政府に対し、この新しいワクチンは「これを受けた人々の間に遺伝子変異が起こっていないか」調べてみることを要求している。「その理由は、Paroxysmal Extreme Pain Disorder (PEPD、発作性激痛症) のような、普通は極めてまれな、遺伝子的病気が起こっていることから、それが危ぶまれるからである。」

「これらの ADR は、ワクチン接種を受けた、妊娠した女性の赤ん坊の中で、また怪しいが、ワクチンを受けた成人の間で、起っているのだろうか？」と、ローリー博士は問う。

「MHRA (医薬品・医療製品規制庁) は今、**Yellow Card システムに、十分以上の自信を持っており、Covid-19 ワクチンを人間に使うことは危険だと、宣言することができる**」と、調査団は書いている。「Covid-19 ワクチンで傷ついた人々を援助し、より長期の効果が期待でき、環境を改善する、人道的な努力を急ぐ準備が、今なされるべきである。」

「ワクチンによる傷害のメカニズムは、Covid-19 自体と同じものに思われるから、ここでは、専門的知識をもつ、大勢の国際的な医者や科学者が結束して、Covid-19 の治療に成功しなければならない」と、医者たちはつけ加えた。

更につけ加えて、このグループは、MHRA に次のような緊急質問を提出した。

1. ワクチン接種の 28 日間に、何人が死んだか？
2. ワクチン接種の 28 日以内に、何人が入院したか？
3. ワクチン接種によって、何人が身体障害者となったか？

時間が来たら、この英国の公機関が、この研究調査団体の質問に、答えるかどうかはわかるだろう。

関連ニュースとして、先のウィークエンドに、「欧州医薬品庁」(EMA) の安全委員会が、アストラゼネカの COVID-19 ワクチンを人々が接種した後、別のまれな血栓症状を発見し、60 歳以上の人々は、アストラゼネカ・ワクチンを避けるべきだと警告した。

<https://www.infowars.com/posts/astrazenecas-covid-jab-should-be-halted-for-people-over-60-ema/>

[訳者 Greatchain より]

これは資格をもつ医者・科学者の団体が、精細で客観的な事実を調べ、公的な政府機関に対して、公開質問状の形で返答を要求し、かつ、ワクチンの犠牲者への、贖罪的政策を具

申したものである。彼らが「前代未聞」と言っている、英国政府自体のデータから得た、驚くべき数値や事実は疑うことができない。最後の一文で、この英国の公機関が、果たしてこれに返答をしてくるかどうか、怪しいと匂わせている。これはおそらく、バイデン-ファウチ権力傘下の各国にも共通する、隠し事であろう。

なぜわが国では、あの有名な4社が製造元となっている“ワクチン“について、informed consentはおろか、その内容のおよその説明さえしないのだろうか？ これはファウチやバイデンにも見られる、愚民政策と言ってよいものだ。疑惑や不安（反対意見ではない）があることがわかっていながら、これを無視して、ワクチン接種へ突っ走る政府は、不気味である。この論文のような途方もない実態は、わが国には無縁であることを願う。